

# 畦畔のカバープランツ

## 「クリーピングベントグラス」の導入実証

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 地域課題解決展示ほによる営農再開支援

研究課題名 クリーピングベントグラスを用いた省力的な水田畦畔管理技術の実証(南相馬市)

担当者 松木伸浩・根本知明

### I 実証技術の解説

#### 1 要旨

省力的な畦畔管理を目的とするカバープランツの一つとして、クリーピングベントグラスが試験的に導入されている(図1)。畦畔雑草を除草剤2回散布と刈り払い1回により除草した後、9月上旬に播種すると、約3か月後に定着できる。

- (1) 除草作業前の畦畔植生はチガヤ、ススキが優占していたが、クリーピングベントグラス播種の約3か月後には、草丈5~10cm程度の本種が優占していた(図2)。
- (2) 播種前の除草作業、播種作業に要した作業時間は、1aあたり82分であった(表1)。
- (3) クリーピングベントグラスを用いた畦畔被覆にかかる初年目の資材費は、1aあたり13,089円であった(表2)。

#### 2 期待される効果

- (1) クリーピングベントグラスを導入する際の参考となる。

#### 3 活用上の留意点

- (1) 南相馬市小高区で、クリーピングベントグラス(商品名:畦畔グリーン)を用いた結果である。茎葉処理除草剤はグリホサートカリウム塩液剤を用いた。
- (2) 本種は、2年目以降、6~7月に収穫し、草高は最大70cm程度となるが、その後、出穂茎は枯れて倒伏する。
- (3) 本種は、斑点米カメムシ類の発生源となることがあるため、主食用水稻を作付けする際は斑点米カメムシ類の発生に留意する。
- (4) 埋土種子から発芽したと考えられる雑草が発生していることから、翌春に手除草、水田作物(水田畦畔)に登録のある選択性除草剤散布などの対策が必要である。

## II 具体的データ等



図1 クリーピングベントグラスが被覆した法面  
場所：川俣町山木屋、撮影：2016/8/15

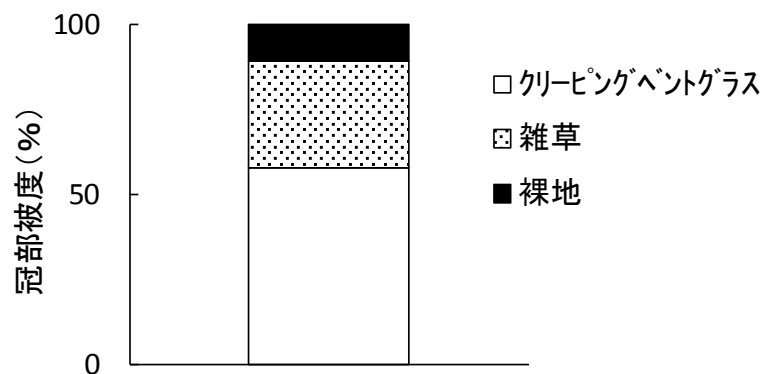


図2 クリーピングベントグラスを播種した畦畔の冠部被度  
播種：9/4、調査：11/30

表1 クリーピングベントグラスを用いた畦畔被覆にかかる  
1aあたり作業時間

作業	実施日	作業時間 (分)	備考
除草剤散布	7/19	4	動力噴霧機で散布 (散布液量10L/a)
除草	8/23	64	刈り払い機を用いた除草
除草剤散布	8/31	6	背負式電動噴霧機で散布 (散布液量2.5L/a)
播種	9/4	8	育種箱用薬剤散布器で 2kg/a播種
合計		82	

表2 1aあたり資材費

資材名	金額(円)	内訳
除草剤	734	薬量200ml/a×2回
種子	12,355	2kg/a
合計	13,089	

## III その他

### 1 執筆者

松木伸浩

### 2 実施期間

平成29年度

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 積雪寒冷地におけるベントグラスを用いた水田畦畔の緑化(日緑工誌, 38(1), 2012)